

かいぎめいしょう 会議名称	へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい 平成28年度 第4回杉並区地域自立支援協議会
にち じ 日 時	へいせい ねん がつ にち か 平成29年3月21日 (火) 13:30～16:00
ば しょ 場 所	なかとう かいだいいちいいんかいしつ 中棟4階第一委員会室

<出席委員>

たかやまゆみこいじん (かいちょう) かねこめぐみいじん きくちえいじいじん さいみょうひさえいじん ながのたつやいじん まえさきけんいち
高山由美子委員 (会長)、金子めぐみ委員、菊地英治委員、西明久恵委員、長野達也委員、前迫健一
いじん おおわだこうへいいじん たなかなおきいじん つぐひとしいいん すずきまさみちいじん はるやまようこいじん しもだかずのりいじん しゅり
委員、大和田耕平委員、田中直樹委員、継仁委員、鈴木正道委員、春山陽子委員、下田一紀委員、修理
みかさいいん ふじたようじいん たなかすみこいじん ながたなおこいじん なかがわようすけいいん かしわざしんじいん いがしらえみ
美加沙委員、藤田洋二委員、田中澄子委員、永田直子委員、中川洋介委員、柏木伸二委員、井頭恵美
いじん
委員

けつせきいじん かみさくあやこいじん おがきわら いじん
欠席委員：神作彩子委員、小笠原みのり委員

ぼうちょう めい
傍聴4名

<幹事>

ほけんふくし ぶしょうがいしやしきくか で ほゆうじ しょうがいしやせいかつしえんかちょう りゅうまゆみ
保健福祉部障害者施策課：出保裕次、障害者生活支援課長：笠真由美

すぎなみふくしじむしょたか井戸事務所担当課長：諸角純子

<事務局>

しょうがいしやしきくか いけだけいこ めぐるきみこ ささきなつえ きろく
障害者施策課：池田恵子、目黒紀美子、佐々木夏枝 (記録)

しょうがいしやせいかつしえんか いわさきりゅういち
障害者生活支援課：岩崎隆一

【次第】

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 報告及び検討
 - (1) 幹事会より
 - (2) シンポジウム実行委員より
 - (3) 相談支援部会より
 - (4) 地域移行促進部会より
- 4 議題 第5期のまとめについて
- 5 その他 区からの連絡事項
 - ① 障害者虐待防止に関する区の取組・サービス等利用計画作成の進捗状況
 - ② 平成29年度予算関係
 - ③ 計画策定のスケジュール等について
- 6 閉会

【配布資料】

しりょう だい かいぎょうぎかい だ いけん かだいせいり
資料1 第3回協議会で出された意見と課題整理

しりょう ほうこく
資料2-1 シンポジウムの報告・まとめ

- 資料2-2 アンケート結果
- 資料3 相談支援部会活動報告及びまとめ（別添資料でB～Eグループのまとめあり）
- 資料4-1 地域移行促進部会活動報告及びまとめ
- 資料4-2 地域移行促進部会 課題整理メモ
- 資料5 第5期地域自立支援協議会の取組み状況と課題
- 資料6 障害者虐待防止に関する区の取組状況について
- 資料7 サービス等利用計画作成の進捗状況等について
- 資料8 平成29年度障害者福祉関連施策予算について
- 資料9 保健福祉計画等策定スケジュール（案）
- 添付資料 H 28年度Bグループ報告書
- 添付資料 H 28年度Cグループ報告書
- 添付資料 H 28年度Dグループ報告書
- 添付資料 H 28年度Eグループ報告書

【内容】

1. 開会（司会目黒）
2. 会長挨拶
3. 報告及び検討
 - (1) 幹事会より

※資料1を基に事務局から説明。

・地域移行促進部会：課題を類型化。5期のまとめではどこを優先し、次期にどの課題に取り組むのかを検討する必要がある。

・相談支援部会：2月24日第2回の全体会で議論。医療的ケア児の送迎の問題、教育の保証のことなど意見として出された。就労Dグループは部会化するかどうかという話題が出ている。

・すまいるについては今後も定期的に報告をしてもらうこととする。

・差別解消地域支援会議は本会で進め方について意見が出された。

(2) シンポジウム実行委員より：資料2-2参照。回収率50%。2時間位にしてほしい、午前に開催したが、午後がいいという意見もあり、時間設定が難しい。今後も時間配分、内容等検討が必要。

実行委員の活躍により事務局の負担が軽減した。引継ぎや事前打ち合わせが必要。次回は広報にも掲載。区役所内の会場で開催できるようにする。実行委員を引き受けてくれそうな方に前年度から声かけしていく。

意見

・タイトな時間だったがみんなに助けられた。

・発言者の顔がみえてよかった。勇気づけられた。車いす席が真ん中に設定されており、席を外すのが難しかった。出入りしやすくしてほしい。

・保護者の参加が少なく残念だったので参加しやすい時間設定をお願いしたい。

・区役所内の会場がよい。

・パネルディスカッションはその場で意見が言いにくい。動画など他の方法で生活の様子をアピール

できるとよい。

・次期もシンポジウムを続けてもらいたい。

(3) 相談支援部会について(資料3参照) 2月24日に全体会を実施した。

Bグループ(重心について): 支援者での意見交換だけでなく、当事者からのヒアリングも実施した。ライフステージにおける切れ目ない支援、医療児の教育・通学の保証をどうしていくか、医療が必要なケースが増える中、その担い手の確保が難しい等様々な課題がある。

意見・議論

・医療児: 進学後通えない人が出ている。

・介護職・医療職: 採用、育成が難しい。区の取り組みも聞きたい。

・送迎の問題は学校・区にこれまで相談が上がっており、課題として認識あり。保護者の同乗が認められていない。都のルールで乗車中の医療ケアも見合わせている。保護者の負担が軽減できていない。時間管理できる医療ケアはバス乗車させている場合もある。通学できなければ訪問しているケースもあり。

・医療ケアにまつわることについては大きな課題と認識、都の協議会にもあげるとよいのではないかと。

・保護者同乗の問題は、合理的配慮に違反しないのか。教育の保証は憲法にも触れる問題。直ちに手を打たなければ、時間がかかると子どもは成長してしまう。

・国都区の動きは情報を共有し、差別解消支援会議でも検討してほしい。

杉並区より

・医療ケアについて永福学園新入学者より障害者施策課に相談あり。医療ケアのためスクールバスが利用できない、車がないので移動支援を出してもらえないか? 児童発達支援に週5通っていたため、学校へも週5通いたい。⇒通学支援はすぐにはできない。教育の保証であれば、都との調整も必要とのことで校長にも会いに行った。教育部門との話し合いも2回実施、課題の認識はあった。車で様子をみながら通う場合や一般交通機関を使って通うといっても親の付き添いがないとバスに乗れない、親が具合の悪いときはどうなるのかという問題もあり。区・都として検討してほしい。

・3月22日に医療ケアの担当者(訪問看護、通所施設担当者)で顔合わせ。現状の共有、意見交換、交流を行ない、孤立しがちな看護師の働きやすい環境・人材育成を目指す。次年度以降は医師会とのパイプを強めていきたい。

Cグループ(高齢期の課題): 介護サービスへの切り替え時、困らないようにどう支えていけばいいのか。意見交換、協議してほしい。

意見・議論

・施設で18歳~70代まで同じところにいると一緒での活動が難しいこともある。

・介護保険が厳しくなっており、総合支援法とかい離している。年齢があがるのにサービスが減る。ケアマネもみえない障害を正しく理解し、ケアプランを立てなければならない。

・65歳を超えても通所は可能なことが多いが、居宅介護、ショートステイ等支給量が減少している。一例だけでなく、全体としてどうなのか実態把握が必要。

・支給量が減ること自体問題、費用負担についても補てんされていない。

・高齢になると、障害の重度化もある。どうして時間が減るのか、理由が明確でない。自己負担が多

くなる、蓄えを崩さないといけない。不安である。

・65歳になったから施設を移れと言われても受け入れられないこともあるだろう。65歳に到達する2年位前から準備をするようにという傾向があるようだが、生活に合わせた支援をするといいながら準備をさせるのはおかしい。本人にどういう形で情報が伝わるのか非常に疑問。

杉並区より

・当事者、ご家族の話 をききながらご本人が困らないように調整している。合わせてもらっているというのは少し誤解がある。Cグループの課題についてはもう少し具体的に挙げてほしい。

・生活園で65歳を超え、施設移行するときは、前もって本人・家族の意向を聞き、高齢者施設を見学してもらっている。関係機関の意見も確認しながら、本人にとってベストな方法は何か考えている。

・共生型サービスが登場、今後の動きを見据えたい。

・ケアマネにも障害を理解してもらうことは重要、協議会本会にもケア24やケアマネに入ってもらい、様々な視点からの意見をもらえるとよい。

Dグループ(就労について): ワークサポートの雇用支援ネットワーク会議に参加し、定着支援について意見交換したが現メンバーでは限界がある。今後、定着支援の議論については雇用支援ネットワーク会議に引継ぎ、検討を進めてもらいたい。高等部からの就労やワークサポート一所で就労を支えている等杉並区における就労の課題について広く意見を求めるためにも部会化をどうするか。

意見・議論

・ワークサポートとの連携、支援員が継続しない。

・障害特性の理解が進んでいない、短期間で離職を繰り返す、高齢者の再就職の希望、関係機関で職業準備性が見極めがうまくいっていないなどの課題がある。

・定着にはスムーズな連携や各機関の役割分担が必要。

・週20時間働けないケースには短時間就労の希望がかなえられるとよい。

・相談支援部会のワーキンググループもメンバーの変更あり、相談支援員だけではテーマ別でやれないことも増えてくる。今まで出した課題は雇用ネットワーク支援会議に引き継ぐが、就労の課題は定着支援だけではないので今後も広く話し合っしてほしい。

Eグループ(児童の課題): 施設見学を実施。見学前に事前アンケートにより事業所の理念など確認。ネットワークづくりもしながら今後も見学を続けたい。学校との連携の強化、アセスメントについて勉強したいという希望も出ている。

意見・議論

・5期で話し合ったこと、アンケートなどを今後継続するのであればまとめていきたい。

相談支援部会については、ネットワークの構築や相談員の質の向上には一定の効果がみられる一方、部会と本会のつながりを感じない、医ケアの問題は何年も変わっていない、テーマ以外のことが話せない等の意見がでており、今後の在り方を議論する必要がある。すまいる3圏域で地域別で開催していくのもよいのではないか。

・各グループでの課題が部会でやること、当事者や家族も入れて全部、部会にしてもいいのでは。

・会長より: 各グループのテーマが大きくなり、本会とのつながりが見えにくくなっている。部会化も検討して次期につなげたい。最低でも1つは部会にできるとよいのではないか。

(4) 地域移行促進部会について(資料4-1、4-2)

地域で健康に暮らすための医療面の5つの課題について検討している。

・本人の受診をチームで支える：受診をスムーズにするためにどう連携を図ればよいか意見がほしい。

・医療サービスの仕組みを知るために知識を深める機会を増やす。

・変化に気づくためにも問診が大切、健康ノートの復活、チェックリストを作成。

・服薬管理、見守りについてははしくみづくりができないか？キーパーソンの高齢化。自立生活援助の活用はどうか。

意見・議論

・受診に付き添ってくるのが誰なのかどこまできいていいのかわからないことがある。

・これまでの経過、介護にどういった問題があるか、アンケートを出してもらいたいこともある。

・ケア24は医師会とやりとりできるルールがある。障害分野でもいかせないか

・医療のことだけでなく、本人の様々なことをいかに代弁できるか

・在宅医療地域ケア会議、数か所の圏域から声がかかり始めたが、障害もやりたいがなかなか難しい

・相談支援専門員が認知されていない。

今後については、共通の課題もあるが、障害によりテーマや優先度の違いもある。テーマなのか障害なのか、今後部会内でどうしていくか検討必要。

4 第5期のまとめについて(資料5参照)

・ライフステージ別では学齢期、高齢期に大きな課題あり。

・医療ケア児：通学の保証、権利⇒来期以降の課題として残す

・課題解決にまで至っていないものについては6期、自立支援協議会で取りあげる。

・親亡き後の住まいの検討、住宅確保への要配慮者：居住支援協議会で検討、障害部会では民間ア

パートへのマッチング、空き家対策については、建築課で継続的に検討。

5 区からの連絡事項(資料7、8、9参照)

障害計画策定、9月には形づくり、パブリックコメント

6. 閉会

会長より：協議会では障害計画への意見を求められる。適切なタイミングで意見を言えるよう、会議を計画してもらいたい。差別解消支援会議の方向性については第2回を今年度中に開催する体制がとれていない。都の動きをみながら、事例の共有化だけでなく、事業者へも普及していけるよう協議会の意見もきいて次年度早い時期から進めてもらいたい。

事務局より：次期第1回協議会は5月に開催、障害計画策定に合わせて進めていきたい。

委員選定し、依頼文送付予定。